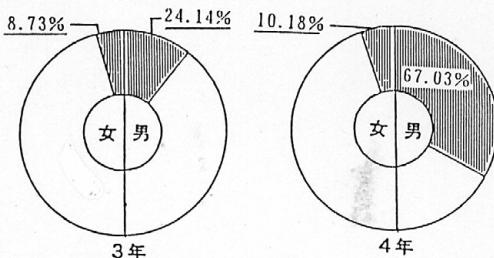


七月に実施された前期試験において、今年も多数の「前期監告者」が出た（詳しい内訳は左に掲載）。今年の前期監告者は全体としては前年度比で0.3%の上昇だった。学年別にみていくと、一年生は大半の学習（或いは試験）がまだ進んでいない（男：3年生は男女ともに減少（男：2.3%、女：4.8%減）して依然として前期監告者は多い。これは、一年生は男子が準拠しなかつたもの）。二年生は男子は3.9%、女子は男子は5.4%増していっている。四年生は男子は5.4%増加、女子は男子は4.9%減の減少で、全体では2.7%の減少だった。四年生に限っては、一科目でも評定が一ヶ月以下になつただけで前期監告を受けるため、男子学生の上昇は学年全般である。こ



男女ともに增加（男：1.4%、女：2.5%増）しているが、これは前年度と試験日程が異なる（夏期休業前後）為に混乱が生じたためと思われる。四年生は男子は5.4%増加、女子は男子は4.9%減の減少で、全体では2.7%の減少だった。四年生に限っては、一科目でも評定が一ヶ月以下になつただけで前期監告を受けるため、男子学生の上昇は学年全般である。こ

るが、これは前年度と試験日程が異なる（夏期休業前後）為に混乱が生じたためと思われる。四年生は男子は5.4%増加、女子は男子は4.9%減の減少で、全体では2.7%の減少だった。四年生に限っては、一科目でも評定が一ヶ月以下になつただけで前期監告を受けるため、男子学生の上昇は学年全般である。こ

れは、一部の学生の間に「四年になればなんとか通してもいいだろう」といった考えがはびこっているためもある。またこれとは別に、最近一部の学生が故意的に「試験放棄」をしている事が懸念される。これは、試験を受けなければならないことを特定科目に絞ることができる、かつ放棄した科目は追試で拾うという方法である（反面、再試ではC判定である）。これが上級であり、追試では得点が80%になつてしまい、デメリットも多い。以上、今回の前期試験を取り返してみると、学生は試験を必ずしも軽くみているといつてはいる。このように語っている。試験を直面目に考えてみると、学生は試験でも痛感が多いことは、実際の試験においても、説明問題が白紙といふ状況になるのは未收得者が出でている。このような状況になるのは、自分の目的をもつて勉強していかないからではない。この点については、教科が出てくる。そうすれば、「薬学」に全般に対しても自然と心構え変わってくるのではないか。今の学生の勉強の仕方では、試験が投げやりになつてしまふのも無理はない。試験の直前に頭にたたききたい重要な学問を頭にたたききたい。

周知の通り、今期に入つてから授業開始のチヤイムが新しくなった。これは、今までのサクレーンが研究室等で「うやうやしくなった」。このことは、やや私塾でも発車のベルがより「人間らしさ」を求めて次々と変更になつた情勢も考慮して、更に踏み切った次第である。今回の件は教授総会の多数決により承認された。現在のチヤイムは総会に於て十二種類のメロディーから投票によって選出された。それが次の結果である。チヤイムは次第がある程度の変更がある。それは、連絡されなかつたため、多少は混乱が生じた。この点について学校側は陳謝している。この変更につき、学生にアソイムのことをとつた。学生のチヤイムを当面続けることである。

新チヤイムの評価

これまでの段階は山を登るようないから山の駆け登りみたい。最近は自分でも山を登らないで試験直前に他人のノートをコピーする人が増えているようだが、それでは渠に資料を手にいれた分だけ勉強をしていないことに気がつく。しかしながら、山さえ登りきれば慣れて下りやすくなる。しかし、山さえ登りきれば慣れて下りやすくなる。しかし、山さえ登りきれば慣れて下りやすくなる。しかし、山さえ登りきれば慣れて下りやすくなる。

学习に関して言えば、「勉強」の段階は山を登るようないから山の駆け登りみたい。最近は自分でも山を登らないで試験直前に他人のノートをコピーする人が増えているようだが、それでは渠に資料を手にいれた分だけ勉強をしていないことに気がつく。しかし、山さえ登りきれば慣れて下りやすくなる。しかし、山さえ登りきれば慣れて下りやすくなる。しかし、山さえ登りきれば慣れて下りやすくなる。

これまでの段階は山を登るようないから山の駆け登りみたい。最近は自分でも山を登らないで試験直前に他人のノートをコピーする人が増えているようだが、それでは渠に資料を手にいれた分だけ勉強をしていないことに気がつく。しかし、山さえ登りきれば慣れて下りやすくなる。しかし、山さえ登りきれば慣れて下りやすくなる。しかし、山さえ登りきれば慣れて下りやすくなる。

理科大向山教授による講演会

学習の姿勢を教える

前期告白

発行所 東京薬科大学新聞会 責任者 宮原勇人 新聞会員募集 !!

東京薬科大学新聞

去了十月二十七日、大学院講義室に於て東京理科大学理学部の向山光昭教授による講演会が行われた。講演者がこのころ、「誰と彼」であると言いたいのかを突き詰められて、その歩となることを示された。これまで多くの実習などで「出るべき結果」を交えて話が進められた。

有機合成の分野で活躍されており、その中でも合成の分野は最高位を占めているが、そのようなことを示すために、この講演会は化学を研究する者の心構えを中心とした。教授のこれまでの経験などから実例を交えて話を進められた。

有機合成の分野で活躍されており、その中でも合成の分野は最高位を占めているが、そのようなことを示すために、この講演会は化学を研究する者の心構えを中心とした。教授のこれまでの経験などから実例を交えて話を進められた。

有機合成の分野で活躍されており、その中でも合成の分野は最高位を占めているが、そのようなことを示すために、この講演会は化学を研究する者の心構えを中心とした。教授のこれまでの経験などから実例を交えて話を進められた。

有機合成の分野で活躍されており、その中でも合成の分野は最高位を占めているが、そのようなことを示すために、この講演会は化学を研究する者の心構えを中心とした。教授のこれまでの経験などから実例を交えて話を進められた。

有機合成の分野で活躍されており、その中でも合成の分野は最高位を占めているが、そのようなことを示すために、この講演会は化学を研究する者の心構えを中心とした。教授のこれまでの経験などから実例を交えて話を進められた。

有機合成の分野で活躍されており、その中でも合成の分野は最高位を占めているが、そのようなことを示すために、この講演会は化学を研究する者の心構えを中心とした。教授のこれまでの経験などから実例を交えて話を進められた。

有機合成の分野で活躍されており、その中でも合成の分野は最高位を占めているが、そのようなことを示すために、この講演会は化学を研究する者の心構えを中心とした。教授のこれまでの経験などから実例を交えて話を進められた。

薬味

